



cafe から始まるおもしろまちづくり

2005-2015



港南台タウンカフェ 10 年のあゆみ

<http://www.town-cafe.jp>

# prologue

プロローグ～10年によせて

## 「cafe 的な空間から学んだこと」

コミュニティビジネスやコミュニティカフェという言葉も聞くことがなかった2000年頃。

「まちの交流交差点」という手作りの交流拠点の実現を夢物語のように思い描いていました。

そして2005年、「cafe から始まるおもしろまちづくり」をキャッチフレーズとして港南台タウンカフェが誕生。少しずつ多様な活動が生まれだしてきました。

当初は「みんなが立ち寄れる気軽なカフェサロン」という漠然としたイメージしかなく、小箱ショップや、スペース貸し、まちの情報発信というアウトラインしか決まっていませんでした。

あれから10年。小箱ショップに出店している方、イベントに参加した学生など、これまでまちづくりや地域に関心を持っていなかった方々、そして多くのボランティアや運営スタッフの方々が参画して、当時想像もしてなかった、さまざまなプログラムや活動・事業が生まれ育ちました。

これらの活動は、雑談の中で浮かんだアイデアやひらめき、時には飲み会の席で盛り上がったプランなど、些細なcaféでの日常から生まれてきたこと、そして、さらにはこうした活動を通じて、お互いを認め合い、育み合う土壤ができたことが、港南台タウンカフェの大きな特徴であり、一番の収穫だと感じています。

そして、もう一つ、商店会や自治会をはじめとした地域のみなさまや、行政、関係機関のみなさまにこうした取り組みを温かく見守っていただき、時には受け入れて力をいただいたことは、活動を続ける上でとても大きな支えとなりました。心より感謝を申し上げます。

日常のつぶやきがカタチになっていくプロセスを共有し、地域や社会に主体的に関わるきっかけづくりとなり、さらには地域の多様な団体との連携も生まれてきた場、そんな、なんとなく港南台タウンカフェが目指してきた機能を、今回10年を振り返る中で整理できたように思います。

港南台タウンカフェの活動を通して、何気なく地域やまちを意識し、関わるきっかけになった、そんな一人の「地域人」が、これからも誇らしげに、豊かに輝けるようなことが今後の地域には大切だなぁと、最近強く感じるようになってきました。

地域の豊かな土壌づくりのために、港南台タウンカフェとして果たすべき「ゆるやかな地域の結節点と課題解決のプロジェクト基地的な役割」をどう担っていくのか、大きな大きな宿題が10歳のプレゼントなのでしょう。

2015年10月 齋藤 保

# contents

|                           |    |
|---------------------------|----|
| ○プロローグ 「cafe 的な空間から学んだこと」 | 01 |
| ○港南台タウンカフェのあゆみ            | 03 |
| ○港南台タウンカフェの事業・活動紹介        | 05 |
| カフェサロン / 小箱ショップ           | 07 |
| 地域交流事業・イベント               | 09 |
| まちの情報発信                   | 13 |
| ○対談～港南台タウンカフェが目指す地域のつながり  | 15 |
| ○港南台タウンカフェのつながり           | 18 |
| ～地域の連携が生まれる交流拠点として        |    |
| ○港南台タウンカフェの運営             | 19 |
| 運営体制、予算、事業活動              |    |
| タウンカフェに関わる人たち             | 21 |
| ○データ・資料：プレスクリップ・受賞歴など     | 23 |
| ○株式会社イータウンの取り組み / コラム     | 24 |
| ○10 周年お祝いメッセージ            | 25 |



# 港南台タウンカフェのあゆみ

まちづくりフォーラム港南の誕生から  
1999 年から港南まちづくり塾のメンバー  
が集まって設立されたまちづくりフォー  
ラム港南。人材育成のセミナーや市民活動調  
査などを行うなかで、市民活動や地域活動  
の情報発信や、誰でも立ち寄れる場の機能  
が重要であると実感を得た。2001 年頃か  
ら、地域交流拠点を考えるため、商店街や  
自治会、行政、商業者、市民らも巻き込み、  
研究会やシンポジウムにフォーラム、ガリ  
バーマップイベント、実証実験としての「一  
日交流交差点」などを 4.5 年行っていた。

## 港南台タウンカフェ開設のきっかけ

そんな夢物語も、2004 年頃に横浜港南台商店会との出会いの機会から港南台タウンカフェの開設構想が現実味を帯びてきた。きっかけとなったのは、商店会のホームページ管理業務。その中で商店会ではなく、港南台の地域情報サイトという考え方を提案してみた。

故稲村昌美会長（当時）曰く、「面白い事

を言うやつだなあ！しかし商店会が運営すると、みんな商店会が何かやっている、としか思わない。君のような人間が運営したほうがうまくいくだろう。応援するからやってみたまえ。」そんな一言が、のちにタウンカフェを生み出すきっかけとなったのだ。

その後、港南台テント村の活性化や、商店会事務所の有効活用などを検討する中で、商店会の事務局機能と、株式会社イータウンの事務所を兼ねた「事務所兼交流拠点」が作れるかもしれない…との思いから一気にプロジェクトが動きだした。

そして、これまでの交流交差点の構想や、信頼できる仲間たちとの関係や広いネットワークもあり、その構想からわずか9ヶ月後にオープンセレモニーの日を迎えていたのであった。

## 補助金頼みからの自立

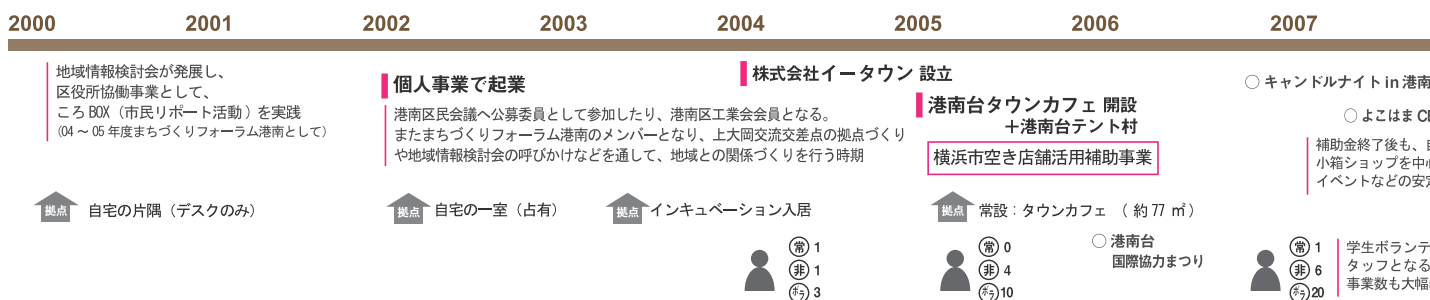
開設当初は、商店街空き店舗活用事業として、改装費や家賃の一部が補助されたが、2年の期限はあっという間に過ぎ去ってい

く。一方開設3年目の2008年度からは、地域性や公益性が高い相互支援や中間支援的な取り組みについて、事業として継続的に実施していくために、政策提言と1年間の実証実験・研究（まちかど交流ステーション事業）を行い、港南区の区民活動支援センターブランチとしての位置付けとなった。

しかし、こうした補助金に頼ること無く自立すべく、2年目からは小箱ショップの利用料、カフェサロンの利用料などすべてにおいて大幅な見直しを行ったり、多くのボランティアスタッフの活動参加協力をいただいたり、サポーター制度の導入やデザイン事業やまちづくり応援事業など、様々な取り組みにより自立した運営を10年間続けることができた。

## 多彩な連携プログラムが生まれた黎明期

そして、数多くの高校生や大学生、主婦らのボランティアスタッフの大きな働きによ



# 2010 2011 2012 2013 2014



り多くの事業が生み出されてきたのも開設後1年から3年目あたりの時期である。ハンドメイドの展示販売を行う小箱ショップでのやりとりから、音楽通りやキャンドルナイト in 港南台が生まれ、被災地応援イベントをきっかけに港南台テント村での地域交流イベントが活発に行われたり、かわら版の市民レポーター活動も本格的に動き出す。NGO と商店会の連携事業から港南台国際協力まつりが始まった。小さな力だが、黎明期ならではの好奇心やハングリーさがあったからであろう。

## 各地のまちづくり応援隊として

開設当初から、港南台タウンカフェの見学依頼は時々あったが、3年目頃から本格的に増え始めて一時は年間40件を超える視察や見学があった。そのうち講演や講師依頼なども増え始め、横浜市のコミュニティビジネス支援事業に代表の斉藤が携わったことなどもきっかけとなり、本格的なまちづくり応援事業が動き出した。起業相談やセミナー、フォーラムの企画運営など、横

浜市や他自治体、経済産業省などともネットワークが深まった事は港南台タウンカフェの運営にも大きな影響を及ぼしている。

## 地域への多様な拡がり と 商店会若手の台頭

開設して5年が経ったことから、港南台のまちづくりを推進するため、地域元気フォーラムを継続的に運営するようになり、現在では港南台連合自治会や港南台地区社会福祉協議会などとも連携を図りまちづくりを考える場づくりをもっている。また、2011年からは、まちあるスタンプラリー事業をきっかけに、商店会の若手メンバーや港南台タウンカフェのボランティアを中心とした若手青年グループ「港南台まちある隊」が結成され、スタンプラリーの継続的な運営にとどまらず、ちよい呑みフェスティバル企画運営やふ〜のん編集メンバーとしても参画するようになり、地域の事業者との関係性が強くなってきた。

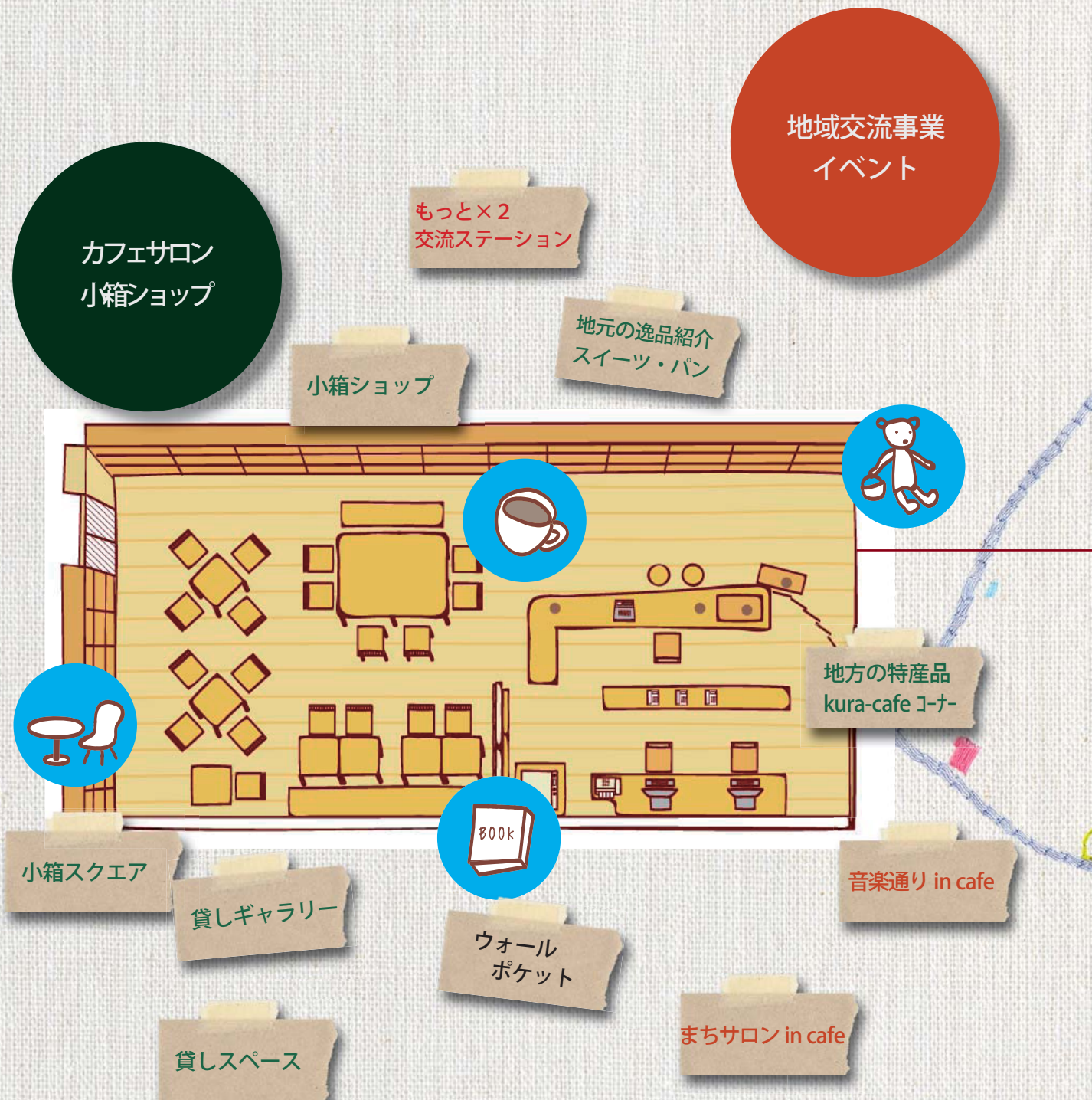
## 被災地支援から生まれたつながり

2011年3月の東日本大震災後、横浜のNPOらでくらしまちづくりネットワーク横浜を結成。被災地支援の情報交換などを経て、2011年5月から毎月1回、岩手県大槌町を訪問。当初は避難所での炊き出しや仮設住宅でのレクリエーションなどの生活支援が主であったが、現地との関係性や信頼性ができた翌春からは、活動支援として、被災者のハンドメイド作品を港南台タウンカフェで販売したり、研修受け入れを行ったりするようになり、2013年度からは復興庁・経産省と連携して、コミュニティビジネスのノウハウ移転事業として本格的な事業支援を現地で行うようになった。

こうした経験は、様々な形で参加の機会を拡げて、地域の魅力ある人や活動に出会うばかりか、港南台タウンカフェ自身の学びとしても非常に大切な機会をいただいたと感じている。(文：斉藤)



# 港南台タウンカフェの 事業・活動紹介



港南台タウンカフェは、  
誰でもぶらっと立ち寄れるカフェを活用した地域の交流拠点です！  
もちろんカフェやハンドメイドのお店としての機能も持っていますが、  
まちや地域への想いを紡ぎながら、カタチに変えていくための、小さな  
アイデアや知恵、ネットワークなどが、いつもバブルのように  
ポコポコと湧いているまちづくりプロジェクトの発信基地なのです。



# カフェサロン 小箱ショップ

## ■カフェサロン

アコースティックな音楽に耳を傾けながらお茶するのもいい。友達とおしゃべりしながら手づくりを楽しむのもいい。このまちで暮らす人たちがゆるやかにつながりあえる交差点。それがタウンカフェのサロンです。

## cafe サロン



手網で丁寧に焙煎されたコーヒーや、こだわりのスイーツを食べながらほっと一息。そんな過ごし方もあれば、趣味の教室を開いたり、ギャラリーで作品を発表したり、楽器演奏を披露したり。形はさまざまですが、気軽に自己表現をすることができるアットホームなこのカフェは、集まった人たちの輪が自然に生まれる出会いと発見、交流の場になっています。

## ニッポンのふるさと特産品



姉妹店「kura-cafe」は、全国の小さなまちのファンづくりを応援するアンテナショップ。岩手県の味噌や福島県のお米など、kura-cafeの魅力的な商品を、タウンカフェでも紹介、販売しています。



## 地元の銘品販売



ご夫婦で作るおせんべいやパン、食材にこだわったお弁当など、地元のお店の方々の人柄や、美味しさの向こうにある物語を味わっていただけます。

■協力店舗：三ツ山製菓 / ぱねとんちーの / にんじん / 瑠璃庵 / テラス / テール / はたの他（2015年現在）

## スペース利用



## ギャラリー



写真や絵画展、手作り作品の販売会ほか、市民活動のPRなどにも利用されているギャラリー。自由な表現の場として活用されています。

■ギャラリー利用回数 11回 / 年（平均）

## ●募金活動



小箱オーナーさんの提案で始まった手作り品の売上を寄付する「手作り募金」。中越地震やミャンマーサイクロン、東日本大震災など様々な災害時に、現地の支援を行っているNPOなどへの支援金として役立っています。

## ●スタンプカード



小箱オーナーさんの発案で、2014年よりスタンプカードが登場！スタンプを20個集めるとゴール。ゴールの際の景品はオーナーさんに提供を協力して頂き、それぞれの小箱のPRに活用してもらっています。

カフェサロン  
貸しスペース  
貸しギャラリー  
小箱ショップ  
小箱スクエア  
など



## ■小箱ショップ

多くの手作り作品が並ぶ個性豊かな小箱ショップ。オープン当時に比べ、出店ブースは倍以上に増え、延べ 550 人を超える小箱オーナーが誕生しています。

## 小箱ショップ



小箱ショップはハンドメイド作品を中心とした展示販売コーナー。常時 80 名以上の作家さんたちが心をこめて作った、バッグや布小物、アクセサリ、雑貨など、温かく可愛い作品が並べられています。

■出店オーナー数：552 名

## 小箱スクエア & キッズスクエア



小箱ショップオーナーさんは、気軽に体験できる手作り教室や、お客様のニーズに応えながら即売や実演を行うことができ、これらを総称して「小箱スクエア」と呼んでいます。自らの作品を知ってもらう機会となっており、和やかな雰囲気の中、お客様とのやりとりを楽しんでいます。

夏休みにはお子さま向けに「キッズスクエア」も開催。日頃のカフェとはまた違い、子どもたちの賑やかな声と笑顔でいっぱいになります。

■月 5 ～ 8 回不定期に開催

## 小箱サロン



スタッフや小箱オーナーさん同士の交流の場を定期的に設け、ディスプレイの勉強会をしたり、各種企画展示や販売イベントについて話し合ったり、懇親会を開いたりしています。いろいろなオーナーさんと知り合うことで、刺激を得て創作意欲も高まり、また同じ手作り好きな仲間としての連帯感も生まれ、タウンカフェ全体の心地よい雰囲気作りの源となっています。

■年 4 ～ 5 回不定期に開催

## 小箱オーナー企画



毎年行っている「クリスマスギャラリー」は、作品の提供のみならず、展示飾り付け作業も、オーナーさん主体となって進めています。他にも、手作り好きな方に資材や製作キット等を販売する「手作り応援市」や、夏の海をイメージした作品展「そうだ！海へ行こう」など、様々なアイデアを持つオーナーさんたちの発案により始まった企画展などもあります。

■これまでの企画実施

2011 年 12 月 クリスマスギャラリー  
(以降毎年実施)

2013 年 2 月 手づくり応援市  
(以降毎年 1 回程度実施)

2015 年 7 月 そうだ！海へ行こう

その他、スタンプカード/キャンドルナイト in 港南台など

## colum

### 小箱ショップに出店ということ

小箱ショップは地域の人材発掘の一つであり、これまで個人的な趣味として製作されていた方々が、作品を販売する場を得て新たなコミュニケーションが生まれ、技術の向上もさることながら、自己実現の機会となっています。

ただ作品を委託販売するだけでなく、様々

な企画やイベントに携わることで生じる世界の広がり、お客様や他のオーナーとも緩やかに繋がることのできる仕組みを丁寧に伝え、タウンカフェならではの小箱ショップの在り方を常に模索しています。

田中久子

港南台タウンカフェ  
スタッフ

# 地域交流事業 イベント

## ■地域交流イベント

様々な地域の交流が生まれるイベントや活動を行っています。その多くは何気ない会話やアイデアがきっかけとなり、知恵やアイデアを共有し考え、学びながら行う市民参画型の活動となっています

## キャンドルナイト in 港南台



「キャンドルの灯りを眺めながら、環境のことや暮らしのことを考えよう」きっかけは小箱オーナーのそんな一言だった。じゃあ、やってみようよ…と始まった取り組みは今年2015年で11回目となる。2013年からは地域の団体もキャンドル作りに参加している。はまっこやキッズのコーナー、地区センターやケアプラザのコーナー、それぞれのコーナーが個性的に飾り付けられ、更に輝きが増した。

廃油を使った手作りキャンドルに使う卵の殻集めには、地域の方々も協力してくれる。半年以上前から実行委員会を立ち上げ準備を始め、当日のお手伝いは約40名。賛同・協力してくれる団体や企業は40を超える。灯される1000個に及ぶキャンドルの灯りは、そんなまちの人たちのあたたかさのよう。



### 【DATA】

- 主催：キャンドルナイト in 港南台実行委員会
- 時期：毎年9月中旬に実施
- 場所：港南台テント村
- 運営スタッフ：
  - ・キャンドルナイト in 港南台実行委員 10名
  - ・運営ボランティアスタッフ 25名～40名
  - ・キャンドル参加団体 約6団体（20名～30名）
- 賛同団体：毎年約40社・団体  
広報やライトオフ、什器備品提供、賛同金などのご協力

※ 2008年度より港南区民活動支援センターランチ事業として実施



### 【DATA】

|     |              |      |            |
|-----|--------------|------|------------|
| 第1回 | 2007年 6月 23日 | 第7回  | 2011年9月 3日 |
| 第2回 | 2007年12月22日  | 第8回  | 2012年9月 1日 |
| 第3回 | 2008年 6月 21日 | 第9回  | 2013年9月21日 |
| 第4回 | 2008年12月20日  | 第10回 | 2014年9月13日 |
| 第5回 | 2009年 9月 5日  | 第11回 | 2015年9月19日 |
| 第6回 | 2010年 9月 4日  |      |            |



キャンドルナイト in 港南台  
港南台地域元気フォーラム  
港南台まちあるスタンプラリー



## 港南台地域元気フォーラム



港南台のまちが好き、港南台をもっとよくしていきたい…そんな思いと思いが会って力になっていくこと、そして広がっていくことを願って、毎年港南台地域元気フォーラムを開催している。出会いと交流、気付きと学び、そして一緒に感じ合い、考え合うひときは、きっと参加者やこのまちの次の一歩とつながっていくはず。「もっとこうした集まりがあればいい」「これからも継続して欲しい」との参加者の声が頼もしい。

【DATA】

2008年度 ガリバーマップ実施  
(9/27 @港南台高校、11/30 @竹林まつり、12/13 @港南台テント村)  
2009/2/15 ガリバーマップシンポジウム  
2009/11/7 「ガリバーさんの足あと探し」まちあるき  
2011/2/20 「地域で育つ、子どもたち」@港南台ひの特別支援学校  
2011/9/23 「協働から総動へ」@港南台ひの特別支援学校  
2012/7/1 港南台地域元気ミニフォーラム@港南台タウンカフェ  
2012/10/7 語ろう！まちへのメッセージ  
2014/2/4 つながりあおう！人も活動も  
2014/7/20 地域の課題ってなあに？  
2015/3/21 語り合おう、これからのまちづくり



## 港南台まちあるスタンプラリー



「ふ～のん持ってまちを歩こう！」をキャッチフレーズに2012年から始まった取り組み。まちの魅力や面白いお店、美味しいもの、素敵な店員さんとの出会いなど、いつもは気づかない「まち」の「ある」を「ある」いて再発見してもらう。3店舗のスタンプを集めて応募できるプログラムで、毎年100～200のゴール達成となる盛況ぶり。港南台エリアの40～50の店舗や事業所が参加して、自社商品やサービスを景品として協賛するケースも多い。

企画や運営や、商店会の若手や港南台タウンカフェのボランティア、地元事業者らで結成した「港南台まちある隊」が担うを行う。

●主催：港南台まちある隊 / 横浜港南台商店会  
●エリア：港南台駅周辺エリア

【DATA】

2012年 第1回開催 参加47店舗  
2013年 第2回開催 参加45店舗  
2014年 第3回開催 参加56店舗

# 地域交流事業 イベント

## 港南台テント村フリマ



1998年から横浜港南台商店会が開催しているフリーマーケット。家庭で不要になった古着や日用雑貨、おもちゃ、家電、食器などのリサイクル品などでにぎわいます。また子ども向けのミニゲームコーナーやオープンカフェなどのイベントもボランティアメンバーのアイデアや企画で実施しています。

- 1998年から合計165回開催（2005年からは115回）
- 開催：毎月第4土曜日（夏・冬はお休み）年間8回
- 場所：港南台テント村
- 主催：横浜港南台商店会 / 港南台テント村実行委員会

## うまいもんまつり



港南台テント村で不定期に開催するグルメイベント。これまで地元の飲食店が自慢の料理をふるまったり、新潟、長野、岩手といった地方との交流を兼ねた特産品販売交流なども行いました。

● 場所：港南台テント村

### 【DATA】

|          |                            |
|----------|----------------------------|
| 2005年11月 | 新潟県長岡市 / 神奈川県もの市           |
| 2009年6月  | 地域団体・NPO4団体参加              |
| 2010年11月 | 長野県阿南町和合 / 石川県輪島市 / 岩手県一戸町 |
| 2011年11月 | 長野県和合                      |
| 2012年11月 | 岩手県大槌復興市                   |
| 2013年11月 | 長野県和合、福島市、大槌町              |
| 2014年5月  | 港南台うまいもんまつり（地元飲食店10店舗参加）   |
| 2014年11月 | 港南台うまいもんまつり（地元飲食店8店舗参加）    |

## 港南台ちょい呑みフェスティバル



3枚綴りのチケットを購入して、地元のお店で3軒のはしご酒を楽しむイベント。2015年冬に港南台で初開催。約30店舗が参加してチケットは500枚を超える販売と好評。商店会や飲食店の若手メンバーが中心となり運営している新しい取り組み。

● 主催：横浜港南台商店会 / 港南台まちある隊

### 【DATA】

|              |        |
|--------------|--------|
| ■ 2015年2月開催  | 30店舗参加 |
| ■ 2015年10月開催 | 25店舗参加 |

## まちサロン in cafe



タウンカフェが出来る前から、まちづくりフォーラム港南が不定期に行っていた「まちサロン」。まちの人をゲストに迎え、その人ならではの話を伺ったり、得意なことを披露していただいたりする。月に1回20時まで開店している第3金曜日夜を活用しようと2015年1月より復活した。旅の話・自らの活動の話・得意な唄やギターを披露…そして時には参加者同士で好きな本や映画の話をする。

● 開催：毎月第3金曜日 18:30～

● 主催：まちづくりフォーラム港南

港南台テント村  
うまいもんまつり  
港南台ちょい呑みフェスティバル  
まちサロン inCafe  
港南台国際協力まつり  
もっと×2交流ステーション  
音楽通り



## 港南台国際協力まつり



2006年から毎年1回夏に開催される横浜NGO連絡会（通称YNN）と共催の国際協力イベントです。YNNの会員団体や、港南台周辺地域で活動する国際協力団体等約20の団体が出展して、ステージパフォーマンスや世界各国の食べ物、ドリンクの紹介や販売、フェアトレード物品販売などを行う多彩なイベントとして定着してきました。

●場所：港南台テント村

●主催：横浜NGO連絡会 / 港南台タウンカフェ

### 【DATA】

2006年7月 第1回開催  
～以降毎年1回開催  
2015年8月 第10回開催

## もっと×2交流ステーション



もしかしたら、まちの人たちが出会い、つながり合うきっかけは居酒屋にあるのかもしれない。まちの人を励まし元気づけているのは居酒屋のママ達なのかもしれない…。もっと×2は誰でも参加できる飲み会。タウンカフェの構想づくりの頃から話題になっていた居酒屋機能を月に1回実現しています。

●開催：毎月第1金曜日 19:00～ ●場所：港南台タウンカフェ

●主催：まちづくりフォーラム港南

### 【DATA】

2007年11月2日 第1回開催  
～以降毎年1回開催  
2015年9月4日 第82回開催

## 音楽通り in cafe

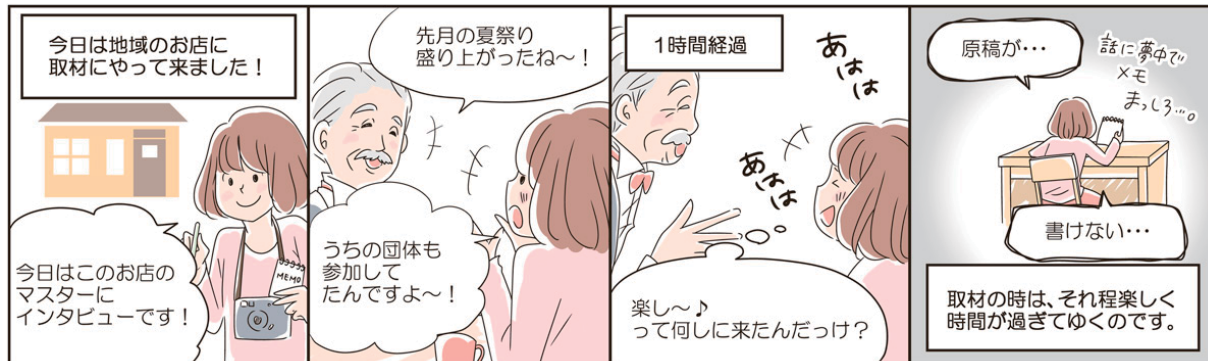


ピアノやギターの生演奏をBGMに買い物やお茶を楽しんでいただけるのが魅力です。二胡やライヤーといった珍しい楽器の演奏も。

[不定期開催]

■音楽通り 68回開催

### cafe こぼれ話



# まちの 情報発信

## ■まちの情報発信

情報でまちをつなぐ架け橋に！港南台タウンカフェでは市民レポーターが地域の情報を発信しています。地域の価値ある人や活動、街の魅力スポットなど地域再発見の機会となっています。

人が集うカフェサロンには、まちの情報が溢れています。ウォールポケットには港南台周辺のイベント情報やボランティア募集などのチラシがところ狭しと並び、その情報をホームページやメールマガジンでも公開しています。また、地域の学生や主婦らが集まって、地域情報誌を企画・編集。港南台をもっと好きになる、新しいつながりが生まれる、そんな情報発信を目指しています。



## かわら版 2005-2010

季節を感じさせるカフェ子の表紙で親しまれていた「かわら版」。企画編集の大半を学生ボランティアが担い、「地域」という視点で商店会情報他、お店・人・活動・イベント情報を紹介してきました。2005年から2010年まで年4回、各2万部発行。

□発行回数 14回  
□発行部数 20000部/回  
□体裁 A5判8ページ(十字折り)



## リーフレター 2010-2013

タウンカフェの活動を他の市民団体や地域の方に広く知っていただくため、「カフェレター」として発行。2010年より地域のイベントカレンダーなども網羅し、「リーフレター」に改名。

□発行回数 28回 □発行部数 500部/回  
□体裁 A4判 4ページ(二つ折り)、A4判 2ページ(両面刷り)



- ・まちの情報紙ふ～のん
- ・こうなんだい e-town
- ・ウォールポケット
- ・中学生まちを支える仕事レポート
- ・市民レポーター活動



## ■中学生まちを支える仕事レポート活動

2010年、タウンカフェに中学生が「職業体験」に訪れた事がきっかけで始まったこの活動も今年で6年目になります。

当初は体験先を再度訪問しての取材でしたが、今では中学生たちが自分たちのお勧めのお店や話してみたい人、なりたい職業など意見を出し合って取材先を決めるようになりました。中学生の目から見た港南台ってどんなまちなんだろう。取材だけでなく、サポーターの学生や主婦らも一緒になってまちの話をする事がこの活動の楽しさでもあります。仕事に対する思いや将来の事を考えるきっかけにもなり、まちの人を身近に感じられる機会になっています。



## ■市民レポーター活動

地域の情報を市民の目線で伝えていく市民レポート活動。レポーターは高校生や大学生、主婦など、地域に暮らす人達です。2010年からは中学生も「まちを支える仕事」レポーターとして活躍。サポーターとして関わる大学生や主婦のメンバーとの交流も楽しく、まちの情報を伝えるだけでなく、活動の中から新しい出会いが生まれ、まちに対する思いが育まれています。



## ふ～のん

風(ふう)渡る穏やかな(のん)まちをイメージして「ふ～のん」と名付けられた港南台の情報誌。2010年秋より年1回発行。まちへの関心や出会いのきっかけになればと、市民レポーターが集まって企画編集する手作りの冊子です。港南台の活き活き人、活動、1000人インタビューなど、まるごと1冊港南台の魅力をお届けします。

## 2010- 現在

- 発行回数 6回
- 発行部数 1-4号 4000部/回  
5-6号 5000部/回
- 体裁 創刊号: B5判 38ページ  
2-5号: B5判 30ページ  
6号: B5判 18ページ



## ウォールポケット

カフェサロンに設置されたスタッフ手作りの情報ラック。市民活動団体や公的機関、ボランティア情報など、非営利で公益的な活動のチラシやニュースレターを紹介するコーナーです。各種団体同士の関係づくりにも。

## こうなんだい e-town

港南台の地域情報サイト。店舗情報やイベントの他、市民活動レポートや「ころBOX」といったまちの達人紹介など、地域に密着した情報を掲載しています。  
<http://www.e-town.ne.jp/kounandai/>

## 港南台タウンカフェ便り

カフェ主催のイベントや、小箱スクエア、音楽通りなどタウンカフェの今!を伝える便りです。

- 発行回数 34回
- 発行部数 200部/回
- 体裁 A5判 4ページ(二つ折り)



## 2013- 現在

## タウンカフェあゆみ (事業報告書)

港南台タウンカフェの立ち上げの経緯や事業の特性・成果、地域とのネットワークづくり、人材発掘と育成などをまとめた報告書です。  
\* webでご覧いただけます。

## 対談

# 港南台タウンカフェが目指す地域のつながり

齋藤 保×岡野 富茂子

聞き手：森田泰子

この春スタッフになった森田です。タウンカフェは、地域と広くネットワークして活動している民間の拠点と聞いてましたが、10周年を機に、タウンカフェ代表の齋藤と「まちづくりフォーラム港南」では齋藤の先輩に当たる岡野に、タウンカフェと地域のつながりについて話を聞きました。

### ■地域とつながる意識？

司会 まず、どのようにして地域との関係を築いていかれたのでしょうか。構想時はどのように考えていたのですか？



齋藤 港南台タウンカフェのような民設民営の地域の交流拠点というのは、最初は「まちづくりフォーラム港南」<sup>注1</sup>が上大岡での実現を模索していたんですが、その頃は地域と言っても、漠然とその地域で暮らす人たち…という感じに捉えていたような気がしますね。

岡野 そうですね、でもよく考えたらその頃も連合町内会の方とか商店街の方をまちサロンなどにお招きしたり、港南台タウンカフェの開設準備中に3回行ったオープンミーティングの時もいろんな立場の地域の方が出席してくださってまし

たよね？

齋藤 地域の福祉団体とか、自治会関係の人とか、行政関係の人とか…。連携だとかネットワークだとかの意識はあまり強く持ってなかったですが、知らない間にそう働きかけていたんですね。

岡野 もしかしたら、まちの人にも何か期待するものがあったのかもしれないですね。実際オープンしてみたら、ハンドメイドの小箱はすぐにいっぱいになってしまったし、いろんな人が訪ねてきたり、様々な相談が持かけられて、ちょっとびっくり！（笑）。

齋藤 そうですね、自分たちも駆け出しだったのにね。やはり地域のニーズがあったということなのでしょうね。

岡野 他に参考事例もない中、手探りでやってきて、3年目の時にタウンカフェのお付き合い相関図をつくってみたら、活動団体・ハンドメイド関係・学生・

お店関係・自治会関係・行政…と、縦横無尽に沢山人や組織と関係性ができていて、自分たちも驚いたことがあったね。

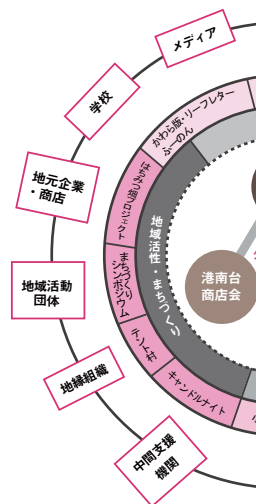
齋藤 そもそもぼくたちが取り組んでいる活動や事業の根底は何なのか？って考えたんですが、「つなげるためのきっかけづくり」をするのが一番の仕事なんじゃないかっていうところに行き着くんですよ。よくまちづくりを考えると、「点から線になって面になって」…って話があるけど、ぼくは違うなと思ったんですよ。これまで講演などでもそう話してきましたが（笑）



たぶん、面にはならない。皆一緒に同じ色になるとかはありえない。そうじゃなくて、一つ一つの点と、ちゃんと向き合っておつきあいすることで結果的につながっていく。意識して線をつくろうと思って動いたことは、僕は一度もない。結果的に三つの線になったり三角形とかできたりするかもしれないけど、あくまでもそれは結果論で。

### ■自然発生的に関係づくりが生まれるのがカフェ流？

岡野 最初の頃よく言ってたのは、こういう場があることで、普段だったら出会わないようなだれかとだれかが出会って、そこでなにか化学反応がおこる。でも、予めこういう化学反応をおこそうと目論んで、この人とこの人を出会わそうって





いうんじゃないくて、たとえば、商店会の方がボランティアの高校生のかつたの意見を書いてかわら版を改良したり、布のバックを作るオーナーさんと篠笛奏者が会って音楽通りがはじまったり、私達にとっても意外な展開が起きたりすることを期待していたような気がする。

**斉藤** 偶然の出会いと意識の芽生えを期待していたんですね。

**岡野** タウンカフェの場合、イベントもやれば、取材系のこともやってるし、カフェの運営とかいろんなことをやってるから、何かやりたいなって思ってる人が、自分にあったことに関われる。ボランティアやイベントなどの実行委員、ちょっとしたお手伝いなど、地域の人達や学生たちが関わりをもちやすいのかも。

**斉藤** キャンドルなんかすごくいい例だ

なって思う。こういうのやりた  
いってつぶやく人がいて、だった  
ら、ここでライト消してやります  
かって、そんな簡単なノリから  
はじまって。お金がないからど

うするの？じゃあ、一緒に考えようよ  
って、無謀にも最初の頃は入場料 500 円  
もらってたり、高島屋やココスにも行っ  
て「電気消してください」って頼んだり  
とか、ちょっと動いてみることによって、  
あ、自分が地域に関わってる！とか、働



き掛ければ反応が返って来るんだ！とか  
感じる。周りの変化がどんどんできて、  
今や子どもたちや地区センター、ケアプ  
ラザ、地域の事業者も協力してくれて…。  
まさかこんなに大きくなるとはね。

**岡野** 地域情報紙ふ～  
のんも地域の方たちが  
編集委員になって、みん  
なで練り上げてつくっ  
ていく。作人達の「思  
い」が込められている  
から、人の心に響いて、  
広がっていくんでしょ  
うね。

**斉藤** そうそう、商店  
会の若手メンバーとまちの有志が集まっ  
て「まちある隊」が出来て、「ふ～のん」  
の中でウォークラリーが実現したことも、

事業者の方々とまちの人達との距離を近  
くすることになりましたよね。

■港南台の中での港南台タウンカフェっ  
て？

**岡野** 私は最初の頃は、自分たちが勝手  
に「まちづくりの拠点」なんて言ってる  
ことについて、長く地域で活動してきた  
方に失礼なんじゃないか…って気がして  
ただけど…。

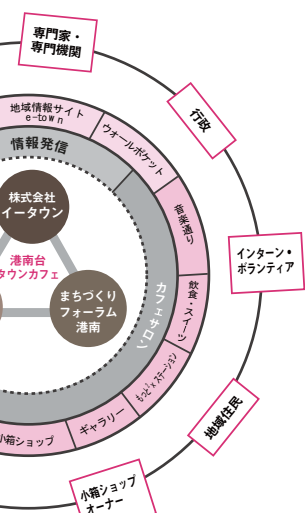
**斉藤** そう言われてみればずいぶん大風  
呂敷を広げるような表現でしたね。でも、  
これまで長年地域で活動を担ってこれた  
方々とはポジションが違うし、関わる  
人の対象や関わり方も違うだろうし、そ  
そも僕らは、はしくれみたいな感じだか  
ら、そんなに意識されなかったんじゃない  
かな（笑）

でもこうして 10 年活動が続けてくる中  
で、少しずつ（たぶん）認めていただけ  
たところもあり、結果的に、道端での話  
程度の関係から、ご自宅の縁側に座らせ  
てもらえるような関係になったのでしょ

うかね…。

**岡野** そうそう、縁側の  
話は、名和田教授が講演  
でおっしゃってたね。た  
えば、港南台地域支  
えあいネットワーク発行  
の「港南台地域福祉保健  
計画」に、地縁活動団体  
や公共施設と並んで、プ  
レイパークとかタウンカ

フェが書かれているっていうのは、それ  
だけまちの人達の懐が深いっていうか広  
い。他の地域だったら、同じ線上におか



## 対談 港南台タウンカフェが目指す地域のつながり

ないんじゃないか」って。

**斉藤** 確かに港南台の人たちは、新しい風や動きを頭ごなしに否定されないし、周りを受け止める…、本当に懐が深いんですね。感謝です！

■港南台タウンカフェが担うべき役割  
**司会** いろいろな人の「思い」や偶然が相まってどんどん関係性が広がっていったということですが、今、意識していることはどんなことでしょうか。

**岡野** タウンカフェは、こういう場が必要なんじゃないかって思って始めたことなんだけど、まちかど交流ステーション事業<sup>(注2)</sup>があって、それでこういう「場」の地域における役割みたいなものがしっかり確認された気がしますね。

**斉藤** そうそう、区役所の勉強会で、いろんな施設や拠点のコーディネータとか有識者が集まって、毎月一回事例研究みたいなのをやったね。

**岡野** そして、こうした場の公共性や公益性が認められてランチ事業<sup>(注3)</sup>につながった。

**斉藤** 思いのある人達が集まって形をつくっていて、それが認められて、声がかかって、一緒に考えて、協力関係が実現する。ランチ事業は今思うとすばらしい関係だと言えると思う。

**岡野** 私たちが大事にしていることって、例えば市レベルとか県とか、国とかに言っても相手にされない。やはり声が届くような範囲の地域に、ちゃんと足をつけて実践していくことで価値が出てくる。そして、それをモデルにしようとする人や自治体があって、そうやってあちこちに点在しながら広がっていくんですね。

**斉藤** そもそも移転事業<sup>(注4)</sup>がそうだし、そうした経験が被災地支援にも活かされた。

**岡野** くまヨコ<sup>(注5)</sup>の人たちとの炊き出しからはじまった被災地支援だったけど、被災地のみなさんの拠点づくりや起業のお手伝いが出来たことはよかったね。



### ■目指すべき港南台タウンカフェの姿

**斉藤** 結局、目指すところは、地域で暮らす一人のひとが新たな次のステップを踏み出すきっかけをつくることなんですかね。漠然と暮らしてるなかで、そこから、何かの意識が芽生えてくる？生まれてくる？そのこと自体がとっても大きな一歩だと思う。そこから足を踏み出して、活動に参加して、気が付くと担い手として、主体性をもって地域活動に取り組んでいくひとたちが、少しずつでも常に育まれてくる。少なくともタウンカフェとしては、その機能を持続するのが大切なのかなって。

**岡野** そうね、そうしてつながった人や団体との関係性が、どんどん広がって、地域の方々との関わりもぐーんと密になったし、視察や講演の依頼も多くなった。今相関図をつくったら、港南台あたりは網の目のようで、日本各地、海外にまでも広がっちゃうね。でも、そうはいっても、今も斉藤さんがね、テント運んだり電球を変えたり、ちまちましたこともやってるのが、タウンカフェの良さでもあるんじゃないのかな。

2015年8月19日  
港南台タウンカフェにて

**齋藤 保（さいとうたもつ）**

株式会社イータウン代表取締役 / くらしまちづくりネットワーク横浜代表 / 横浜コミュニティカフェネットワーク代表など

**岡野 富茂子（おかのともこ）**

港南台生き生きプレイパーク代表 / 港南台タウンカフェスタッフ / まちづくりフォーラム港南会計 / NPO 法人横浜にプレイパークを創ろうネットワーク副理事長など

**聞き手：森田泰子**

港南台タウンカフェスタッフ / おはなしグループおひさま代表 / 笹下川再生プロジェクト / 日下わくわくネットワークおたすけ隊



注1：まちづくりフォーラム港南  
港南まちづくり塾がきっかけで1999年に発足した市民活動団体。まちづくりや地域活動実践者・研究者らで構成。港南台タウンカフェの協働運営の役割を担っている。

注2：まちかど交流ステーション事業  
2007年度港南区との協働で行ったモデル事業。区民活動支援センター開設前にセンターの機能と民間の地域拠点のあり方について情報交換や事例研究などを実施した。

注3：ランチ事業  
港南台タウンカフェとさわやか港南が、それぞれの地域性やテーマを活かして、港南区民活動支援センター機能の一部を民間の地域交流拠点として担う事業。港南区との協働事業として2008年度から運営。

注4：ソーシャルビジネス移転事業  
コミュニティカフェやソーシャルビジネスの運営に課題をもつ事業者や団体に対して、事業や活動のノウハウを提供したりアドバイス・活用する取り組み。2008/2009/2012/2013の4カ年実施。経済産業省・復興庁と連携。

注5：くまヨコ  
正式名称はくらしまちづくりネットワーク横浜。2011年の東日本大震災の被災地復興支援をきっかけに発足。横浜市内約15のNPOや団体・事業者らで構成するネットワーク団体。主に岩手県大槌町への被災地支援を中心に活動を行う。港南台タウンカフェの斉藤が2012年より代表を務める。

# 港南台タウンカフェのつながり

## ～地域の連携が生まれる交流拠点として

つながり  
連携

港南台タウンカフェは、地域の様々な団体や事業者、学校、行政などの連携や協働などを通して、たくさんのつながりを育むとともに、学びの機会をいただきました。また、青少年社会参加の機会や、学生インターンシップ活動、市民活動やコミュニティビジネスを始めたい方々への支援、コミュニティカフェ運営者相互のネットワークづくりなど、横浜地域でのつながりや、コミュニティカフェや地域交流拠点などに携わる全国各地の仲間とのネットワークも広がってきました。

港南台

### 港南台テント村

商店会主催のフリマイベントが、学生ボランティアらによる音楽やキッズフリマ、交流カフェなどのミニイベント、特産品や地元事業者らのうまいもんまつりなども生まれてきました

【主催】 横浜港南台商店会

【協力】 市民ボランティア、地元事業者など

港南台

### キャンドルナイト in 港南台

小箱ショップ作家さんがきっかけとなり、ボランティアや、賛同企業団体などから、最近では放課後クラブや地域施設の参加までつながりの輪が広がっています。

【賛同】 事業者や商店など約 40 社

【協力】 約 8 団体施設

【運営】 市民ボランティア 40 名

\*詳細は P9 参照

横浜市

港南台

### 港南台国際協力まつり

横浜 NGO 連絡会と、横浜港南台商店会の連携事業から生まれたイベント。各地で活動する横浜の NGO/NPO と、港南台の地域活動団体との協働イベントです。

【共催】 NPO 法人横浜 NGO 連絡会

【連携】 NPO や NGO など約 30 団体

【協力】 宮ヶ谷町内会 / 港南台地区社協

港南区

港南台

### 港南区民活動支援センター ランチ事業

地域活動や市民活動の支援機関として港南台タウンカフェが担うことができる地域のつながりづくりや政策提言などを、地域の団体や活動実践者と、行政との連携調整役を担っています。

【連携】 港南区役所

港南台

### 港南台地域元気フォーラム

地域元気づくり事業（横浜市経済局）がきっかけで区民活動支援センターランチ事業として継続実施。自治会や地区社協などの協力関係も築かれてきました。  
\*詳細は P10 参照

【共催】 港南区役所

【協力】 港南台連合自治会、港南台地区社会福祉協議会、子育て連絡会など

港南台

### 中学生まちを支える仕事レポート

港南台タウンカフェで受け入れしていた、中学校の職業体験がきっかけで、体験先へのインタビュー取材から発展して「まちを支える仕事レポート」として定着してきました。

【協力】 港南台第一中学校、受け入れ事業所

神奈川  
首都圏

横浜市

### 横浜コミュニティカフェ ネットワーク

横浜市のコミュニティビジネス支援事業（2007 年度～）で、地域応援拠点として起業家相談やセミナーの実施を行っていました。こうして港南台タウンカフェで学んで起業していった仲間や同士、ネットワークづくりなどの影響もあり、2014 年にはコミュニティカフェ運営者や研究者から構成され

横浜市

る横浜コミュニティカフェネットワークが誕生しました。港南台タウンカフェが事務局として、代表斉藤が共同代表として関わっています。

【連携】 横浜市内約 20 のコミュニティカフェ / 横浜市民局（市民活動支援センター自主事業として補助）/ 市民セクターよこはま

### ジョブトレ受け入れ研修

2005 年に講師として行った若者就労研修「ヤングジョブスポットよこはま」から発展して、2008 年からは若者サポートステーションのジョブトレーニングという就労研修の受け入れを継続して実施しています。

【連携】 NPO 法人ユースポート横浜

### くらしまちづくり ネットワーク横浜

3.11 の東日本大震災以降、横浜市内の NPO や大学、企業らと一緒に参加した被災地支援。岩手県大槌町での避難所炊き出しや仮設住宅でのレクリエーションなどの生活支援から始まり、翌年には活動支援やコミュニティビジネス支援へと活動の幅も大きく変更されてきました。現在も継続的に現地

横浜市

全国各地

でのコミュニティビジネス支援や、横浜での受け入れ研修、募金活動なども行っています。2015 年度からは港南台タウンカフェが事務局を担っています。

【連携】 横浜市民活動支援センター / 認定 NPO 法人市民セクターよこはま他約 15 団体

### ソーシャルビジネス ノウハウ移転事業

全国各地のコミュニティカフェ実践者へのコミュニティカフェやソーシャルビジネス運営のサポート・アドバイス・支援を行う取り組み。

2008-2009 年度 / 2012-2013 年度で全国 9 箇

全国各地

所のコミュニティカフェ運営サポート・支援を行ってきました。

【連携】 NPO 法人ワーカーズわくわく / 認定 NPO 法人市民セクターよこはま / 経済産業省・復興庁



【主な支援先】

- ・ぐるっとおつちショップ [岩手県大槌町]
- ・コーヒータイム [福島県二本松市]
- ・たまごカフェ [福島県福島市]
- ・コミュニティカフェゆめたい [神奈川県茅ヶ崎市]

# 港南台タウンカフェの運営

## タウンカフェの運営体制

NPO と商店会と株式会社。

性質の異なる3つの団体が連携して「港南台タウンカフェ」を運営しています。

事業に関しては、株式会社イータウンが、拠点の家賃負担やスタッフの雇用、各事業の運営など実質的な事務局機能を担うとともに、横浜港南台商店会とまちづくりフォーラム港南の事務局の代行も行っています。

横浜港南台商店会は、地元自治会や事業者への信頼感やネットワークの強さと、10年以上にわたる港南台テント村運営が強み。まちづくりフォーラム港南は、市民活動団体の運営や実践者、研究者らで構成されている強みを活かし市民活動支援やネットワークづくりを行うなど、それぞれの持ち味を発揮しながら連携しています。



## タウンカフェの予算について

港南台タウンカフェは自主的な取り組みで運営されており、補助金だけに頼らない自立した運営を行っています。

小箱ショップを中心として、カフェサロン利用料やイベント売上、情報事業、事務委託費など様々な地域活動での事業収入が9割近くを占めますが、港南区民活動支援センターランチ事業（補助金）や、地域の個人や事業者のみなさまからのサポーター（寄付）も非営利性の高い公益活動を担う重要な運営資金となっています。

### ■収入

事業費（売上）

13,621,600 円

補助金

1,460,000 円

（港南区民活動支援センターランチ事業）

サポーター費用（寄付）

125,000 円

合計

15,206,600 円

### ■支出

人件費

5,940,000 円

仕入原価

4,149,600 円

備品消耗品費

380,000 円

家賃光熱水費

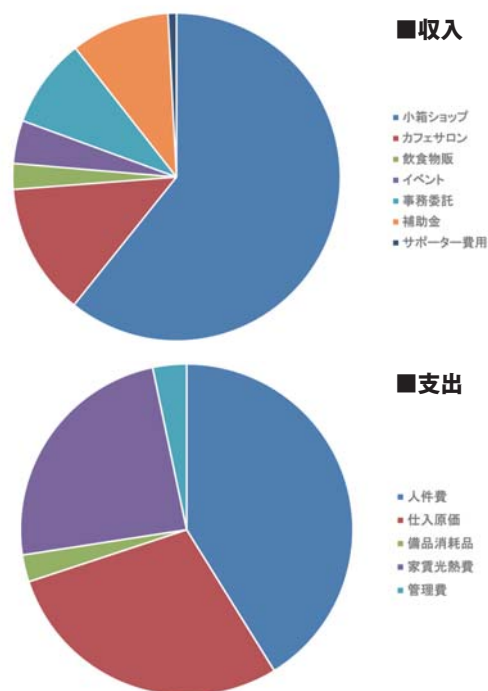
3,485,000 円

管理費

475,000 円

合計

14,429,600 円



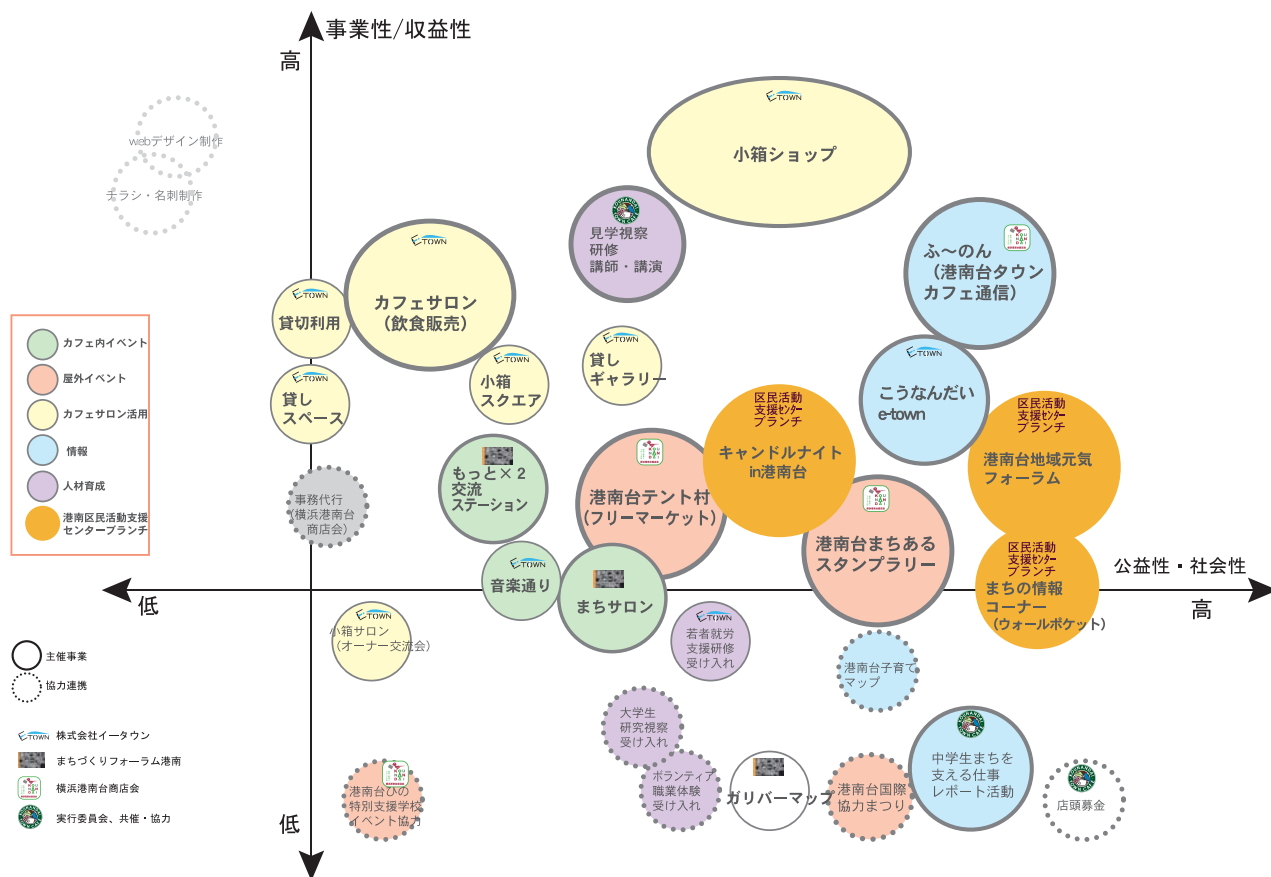
（港南台タウンカフェ事業報告 2014 年度）

## 公益性と事業性のバランス

港南台タウンカフェは市民による自発的な運営として始まりました。

そのため補助金・助成金に頼らずに収益性のある事業で運営費の多くを確保しています。

一方、地域ニーズや課題解決のための事業・活動の多くは、受益者負担が難しいケースが多いため、ボランティアスタッフによる活動運営や、サポーター寄付、行政との協働による運営など様々な方策で事業運営を行っています。



## colum

### 行政との協働スタイル～港南区民活動支援センターブランチ事業

岡野富茂子

港南台タウンカフェ  
スタッフ

港南区の区民活動支援センターができる前の1年間、「まちかど交流ステーション事業」として、行政、有識者、地域の施設や拠点に関わる人達で研究活動をした。その結果、区民が身近に立ち寄れる拠点の必要性和民設拠点の公益性が認められ、日限山のさわやか港南と並んで港南台タウンカフェが区民活動支援センターブランチ(2008年度～)となり、区民活動支援事業の一部を担うことになった。

カフェの一角に情報コーナーを設け区内各施設の案内業務を行うとともに毎年ブランチ事業としてキャンドルナイト in 港南台や地域元気フォーラムなどを行っている。港南台タウンカフェは、地域の自治会や既存施設、学校関係、商店、活動団体、そして小箱オーナーや地域の一般住民など様々な立場の人達との関係性を築いているのが特徴といえる。



イメージ

# 港南台タウンカフェに 関わる人たち

## 杉浦 貞知子

【カフェボランティア / イベント運営】

私が初めてタウンカフェを訪れたのはまだオープン前の木の香り漂う素敵な空間でした。あれから10年こんなに長い間お世話になるとは夢のようです。被災された方々との出会いも、色々な人達とお会いできたのもカフェあってのことです。数多くの経験をさせていただき感謝感謝です。これからも良い出会いと経験ができれば嬉しいと思っています。

活動内容：ボランティア

活動期間：2005年10月～2015年現在



キャンドル  
実行委員

ボラン  
ティア

イベント  
運営

## 谷本 彬史

【イベント運営】

小学生の頃から夏祭りやキャンドルナイトのお手伝いとして関わっていました。

タウンカフェでの活動は、部活の時や学校のイベントの企画、実行など様々な場面で役立っています。

活動内容：イベントスタッフ / ボランティア

活動期間：2011年8月～2015年現在  
(14年～高校生ボランティア)



イベント  
運営

## 森田 泰子

【スタッフ】

記念すべき10周年の年に縁あってスタッフに！まだまだまわりの人に助けてもらいながらも、タウンカフェが積み重ねた10年間の重みと意味を感じつつ、これからの出会いや変化にワクワクして過ごしています。

活動内容：港南台タウンカフェスタッフ  
活動期間：2015年5月～2015年現在



カフェ  
スタッフ

誰かに言われたから、ではなく、地域社会に、こういった取り組みが必要だと感じた人たちが自主的な取り組みとして運営しています。

そのために必要な、人や組織、場、事業、情報、ネットワークは、用意されるものではなく、知恵を出し合い、育みあい、悩み・考え・相談し、試行錯誤しながら一つずつ積み重ねていく。そのプロセスが重要でもあると考えます。

## 田中 美和

【スタッフ】【ふ～のん企画編集】

「用事はないけど来ちゃったわ」。そう言っていたのが一番嬉しい。

作家さんたちの作品への愛情や日々のひらめき、地域の方たちのまちへの思いを感じながら暮らせる事はとても刺激的で幸せな事だなと思っています。

活動内容：港南台タウンカフェスタッフ、  
小箱ショップオーナー

活動期間：タウンカフェスタッフ（広報担当）2009年5月～  
小箱オーナー 2007年3月～、ふ～のん編集 2010年10月～



ふ～のん

カフェ  
スタッフ

## 鳥海 知恵子

【ふ～のん企画編集】

ふ～のんに関わって、たくさんの方と出逢い、まちは人と共に創り育てていくものだと思いました。みんなで考え、育て、繋がり続けてきたこのまちの未来。嬉しい通過点を一緒に祝いできて嬉しいです♪10周年おめでとうございます！

活動内容：ふ～のん

活動期間：2013年5月～2015年現在



ふ～のん

## colum

### 多様な関わり方も魅力のひとつ

港南台タウンカフェは、有償で働くスタッフと、ボランティアやインターンのスタッフ、そして、イベントやプロジェクトごとに参加協力いただく運営スタッフ・サポーターなど多彩な顔ぶれで運営されています。

有償スタッフは6名で、ほとんどが非常勤スタッフでありながら、プロジェクト担当や事業責任者として大きな役割を担っています。

ボランティア・インターンは約15名から

20名程度が登録して、興味のある事業や活動に関わっています。高校生や大学生のエネルギーとアイディアに満ちている若者が参加する一方、地域での活動経験が豊富だったり、幅広いネットワークをお持ちの、主婦ボランティアの方々の存在も大きく、開設以来10年間続けて関わってくださる方もいらっしゃいます。

最近では地元事業者や商店主らの参画も増えて、様々な立場の方がより多様性のあるステークホルダーとなっている。ま

た多くはまちづくりをやる、というよりは、小箱ショップやイベントお手伝いなどの小さなきっかけから関わりが始まるケースが多いことも特徴です。つまり、サービスの提供者と受益者という相対する関係だけではなく、自分の居場所となったり、地域参加の機会となる場と一緒に創っているのが港南台タウンカフェの醍醐味ということでしょうか。

## 齋藤 保

株式会社イータウン代表取締役

これまでボランティアや運営スタッフなど、数多くの方々の協力で運営されてきました。今回はその中から一部の方を紹介させていただきます。

## 田中久子

【スタッフ】

何のゆかりもない港南台に越して、殆どの日々を北上して遊んでいた私に、このまちで歳を重ねていく覚悟をくれたタウンカフェ。それは10年前の秋の日に見つけた、母でもない、妻でもない、『私』でいられる空間。

活動内容：港南台タウンカフェスタッフ、小箱ショップオーナー

活動期間：スタッフ2007年4月～、小箱オーナー2005年10月～



カフェスタッフ

## 安藤佳之

【まちある隊 / キャンドルナイト実行委員】

「新しい自分の発見」  
多くの方との出会いや、学び 遊び 工夫をする中で、利益追求でない物の価値を知りました。また様々なイベントを通じ、共に汗を流す事がとても嬉しく感じている自分に気づきました。

活動内容：港南台テント村 / まちある隊 / キャンドルナイト実行委員

活動期間：2013年6月～2015年現在

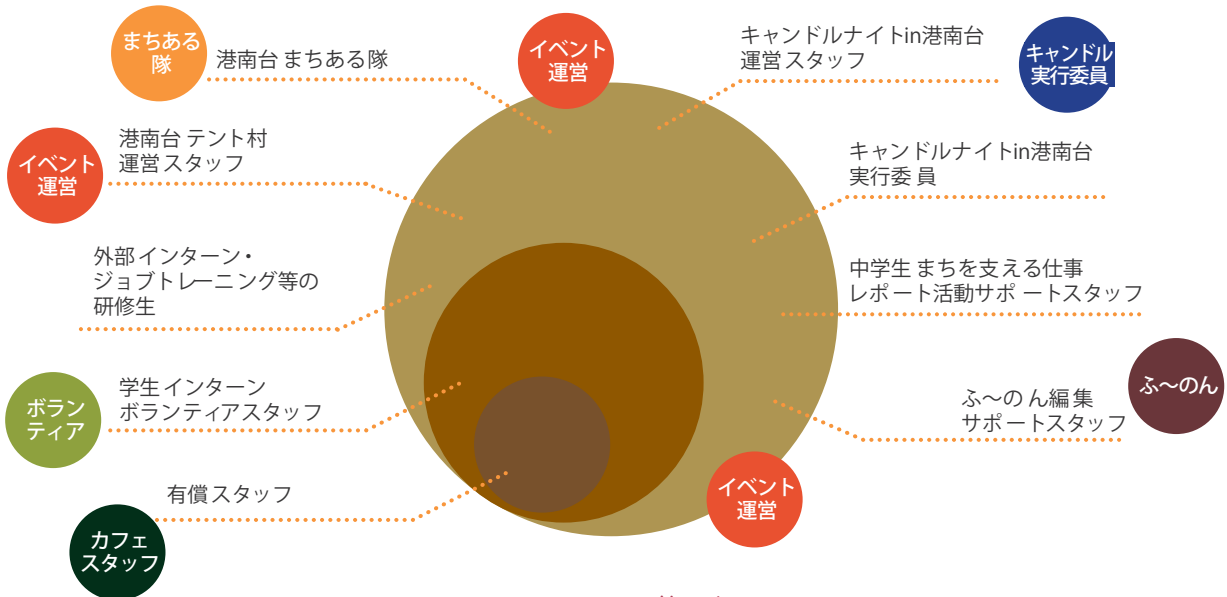
(株式会社ファミリー・ホール港南台斎場マネージャー / 横浜港南台商店会役員)



まちある隊

キャンドルナイト実行委員

イベント運営



## 中村律子

【スタッフ】

一粒の種から芽が出て、少しずつ育ち10年がたちました。数えきれない多くの出会いがあり、多くの学びがあり、かけがえのない時を過ごす事ができました。タウンカフェの成長と共に歩んだ10年は、私にとっての宝物。素敵な場所と仲間感謝です。

活動内容：港南台タウンカフェスタッフ

活動期間：2005年10月～2015年現在



カフェスタッフ

## 菅野裕子

【ふ〜のん企画編集】

自分が住むまちの本を自分たちで作る。何と贅沢で貴重な機会でしょう。タウンカフェにまちへの思いを持った仲間が集まり、話し合い、深め合ってふ〜のんやまちある隊、ちょい呑みが生れました。思いを形にするプロセスも出逢った仲間も、私の大切な宝物です。

活動内容：中学生レポート、ふ〜のん、イベントボランティアなど

活動期間：2010年3月～2015年現在

(2013年9月～アンテナショップ kura-cafe スタッフ)



イベント運営

ふ〜のん



作：伊藤 いち

## プレスクリップ



2015.1.1 読売新聞朝刊



2010.8.31 朝日新聞連載 vol.04



2010.10 横浜市都市整備局  
ヨコハマ人・まち特集

2005/9/17 神奈川新聞報道：経済面  
2006/2/25 tvk (テレビ神奈川) HI! 横浜編集局  
2006/2/26 tvk (テレビ神奈川) TRY かながわ  
2006/3/1 広域関東圏コミュニティビジネス事例集掲載  
2006/5/1 日経 MJ (日本経済新聞社発行) 取材記事掲載  
2007/2/1 神奈川県広報誌「県のため」商店街空き  
店舗活用事例掲載  
2007/3/16 青少年 (内閣府発行) 掲載。  
2008/3/24 週刊ビル経営掲載  
2008/5/1 pal\*system のんびる特集記事掲載  
2008/5/18 ガリレオチャンネル (東京 MX テレビ) 放映  
2008/4/1 ~ 2008/7/1 タウンニュース港南区版小箱物語連載  
2009/3/29 pal\*system kinari 表紙紹介  
2009/3/29 タウンニュース掲載 (SB 5 選)  
2009/4/14 金融ジャーナル誌に掲載  
2009/6/11 NHK「いっところけん」放映

2009/6/16 人間会議 2009 年夏号 掲載  
2009/6/30 地域貢献のすめーしー企業による地域貢献活  
動の実態 (日本政策金融公庫総合研究所)  
2009/8/13 神奈川新聞企画ベンチャー  
「広がる CB 型の起業」掲載  
2009/8/22 神奈川新聞「人コーナー」掲載  
2009/12/1 地域づくり掲載 (特集) 地域活性化センター  
2009/12/4 j-com テレビ放映  
2010/1/14 FM よこはま放送 (ホズミグ)  
2010/8/1 ヨコハマ・人・まち (横浜市発行)  
第 34 号特集掲載  
2010/8/31 朝日新聞掲載  
2010/9/29 ラジオ日本「ヨコハマろはす (ソレ知れたへ  
い)」生放送出演  
2011/3/30 横浜 SB 経営ハンドブック SPARK 掲載  
2011/3/30 TAKEACTION! ソーシャルビジネスアーカイブ掲載

2011/12/1 「地域づくり」(財団法人地域活性化センター)  
「コミュニティカフェとまちづくり」特集掲載：名和田氏執筆  
2011/12/12 「パブリックコミュニケーションの世界」  
事例紹介 (北樹出版)  
2011/12/22 朝日新聞：台の街から連載 (4 回)  
2012/3/1 調査季報事例紹介 (横浜市役所)  
2014/2/25 ケーブルテレビ取材 (被災地支援の取り組み)  
2014/5/6 「FM ヨコハマ」FM ヨコハマ生出演  
2014/7/18 横浜ウォーカー 8 月号掲載「横浜学」講師  
2014/10/15 季刊誌『横浜』No.46 (2014 年 秋 号)  
2005/1/1 読売新聞朝刊掲載「コミュニティカフェ特集」  
に掲載  
2015/1/30 「社会事業家 100 人インタビュー前編」掲載  
IHOOE「人と組織と地球のための国際研究所」発行  
その他、横浜タウン新聞、はかまぜ新聞、タウンニュース、  
すまいる情報館など掲載多数



## 受賞歴

**ソーシャルビジネス 55 選に選定**  
経済産業省による、全国ソーシャルビジ  
ネス 55 選に認定されました。  
2009 年 3 月

**横浜・人・まち・デザイン賞受賞**  
市民が自ら主体となって、創意工夫し、  
地域まちづくりを推進している活動が評  
価されました。  
2009 年 7 月

**まちづくり月間国土交通大臣表彰**  
国土交通省まちづくり月間の表彰をいた  
だきました。  
2010 年 6 月

**横浜市長表彰**  
横浜市困難を抱える若者の就労訓練協力  
団体表彰をいただきました。  
2013 年 3 月

# 港南台タウンカフェを運営する 株式会社イータウンの取り組み

まちとひとが笑顔でつながる  
Community Network Produce  
E-TOWN

～ 多様なきらめきをみつけてつなげる まちのコーディネーター ～



まちづくりフォーラム港南、横浜港南台商店会と連携して港南台タウンカフェを運営する株式会社イータウンは、まちの情報発信や地域活性化など、市民が主体的に取り組み運営するまちづくりを実践したり、他の地域で運営する事業者や自治体などの応援事業を行っている、小さなまちづくり会社です。

港南台では、「ふ～のん」や「こうなんだいe-town」のといったまちの情報誌企画や運営、デザインを始めとして、web サイトや、ロゴマーク、パンフレット、会報誌などのデザイン・製作などのお手伝いもさせていただいております。

## ■沿革

|             |                                   |
|-------------|-----------------------------------|
| 2004 年 7 月  | 株式会社イータウン設立                       |
| 2005 年 10 月 | 港南台タウンカフェを開設 / こうなんだい e-town 運営開始 |
| 2008 年 8 月  | 港南台タウンカフェが、港南区民活動支援センタープランチ       |
| 2008 年 8 月  | 経済産業省コミュニティビジネス・ノウハウ移転事業 08-09 年度 |
| 2009 年      | 横浜市地域経済元気づくり事業受託 (横浜市) 09-10 年度   |
| 2010 年度     | ソーシャルビジネス普及(現場視察会)事業受託 (横浜市経済観光局) |
| 2011 年度     | ソーシャルビジネス相談事業受託 (横浜市経済局) 11-13 年度 |
| 2012 年度     | ソーシャルビジネスノウハウ移転事業 (経済産業省・復興庁)     |
|             | 被災地 4 箇所でのコミュニティカフェ運営支援 12-13 年度  |
| 2013 年度     | ソーシャルビジネス情報発信事業受託 (横浜市経済局)        |
| 2013 年度     | アンテナショップ kura-cafe 開設 (鶴見区)       |
| 2014 年度     | 総務省地域力創造アドバイザー「地域人材ネット」登録         |

## ■会社概要

|      |                                                          |
|------|----------------------------------------------------------|
| 会社名  | 株式会社イータウン                                                |
| 代表   | 代表取締役 齋藤 保                                               |
| 設立   | 2004 年 7 月 7 日                                           |
| 資本金  | 5,000,000 円                                              |
| 業務   | デザイン事業<br>まちづくり・地域活性化<br>港南台タウンカフェ<br>アンテナショップ kura-cafe |
| 所属団体 | 港南区工業会<br>横浜商工会議所 など                                     |
| 所在地  | 横浜市港南区港南台 4-17-22<br>キタミビル 2F                            |



## colum

### 構いたくなるカフェ

美味しいコーヒーを飲みたい、気持ちよい空間でのんびり寛ぎたい、身近なところにそんなカフェがあるといい。港南台タウンカフェ（以下、タウンカフェ）の魅力は、なんだか違う。自分が関わりたくなる、いやもうちょっと突っ込んで「ほうっておけない」「構いたい」自分の中にあるそんな気持が引き出されていく場である。

「タウンカフェがもっとこんな風だったいのに」「港南台のまちがもっとこんな風だったらいいのに」・・・とつぶやく人、思いを持つ人が集まり、みんなでそれを受け止め、アイデアを出し合い、イベント

や小箱ショップのよりよい運営などをカタチにしていく。周辺のデパートや商店会を巻き込んだキャンドルナイトも実現した。情報誌もそう。つぶやきの種類やスケールに差はあるけれど、身近な地域の魅力づくりや課題解決につながるという意味では、タウンカフェは、時に政策提案・政策実現プロセスを体現する、古代の広場のような空間になるのである。

自分が、「自分のしたい」だけでなく、「誰かのしたい」を助けたり、集まる人の思いを、思い合って「みんなのしたい」にしていく。関わると化学反応が生まれ関わる喜びを実感する。そうすることで、

### 石井大一郎

宇都宮大学准教授（地域デザイン学部）  
まちづくりフォーラム港南メンバー

よその人に構いたくなる気持が生まれる。お節介りよりも、もっと自分の主体性や協働性が高い、「構いたくなる気持」が生まれる場所がタウンカフェである。

多様な参加と交流の場をベースとして、つぶやきを受け止め「一緒に〇〇したい」「あなたの力を貸して欲しい」と仲間になりたくなる声かけ、そして、実現のイメージを共有し、共同作業を通して実現していく。タウンカフェのこうした関わりが、たくさんの「構いたい気持ち」を育み、いつしか地域づくりを担う仲間を増やしているのである。10 年続くコミュニティカフェの真骨頂である。

## この街に似合うタウンカフェ

街のアーティストたちが集い、交流するサロン。手芸、小物入れ、ブック・メイク、タペストリーの作品棚に触れるたびに、「タウンカフェはこの街に似合う」との思いを抱いています。私も母の俳句集の製本、子育てマップの作成でお世話になりました。開設10年を迎えたと聞いて、「街に似合う」との思いは確信になっています。人びとの知恵とアイデアが絡みながら街づくりが思索され、心にとどく試作品が生れる機能こそ、タウンカフェの魅力です。「アーティストックな街・港南台」への発信拠点として、タウンカフェの縦横な活躍とリーダーシップを期待しています。

廣畑成志

港南台子育て連絡会代表



## 10周年お祝いメッセージ

港南台タウンカフェ10周年にあたり、たくさんの方からのお祝いメッセージをいただきましたので、その一部をご紹介します。



## 居心地の良い空間で珈琲ブレイク

縁の無い土地に越して来て、家以外の憩いの場所に出会ったのがタウンカフェでした。キャンドルナイトは人の心を暖かくするイベントに感じて。私もイベントを作られてる方々のお手伝いが出来ればと、参加しました。実行委員はボランティアばかりのイベントです。ボランティア本人が何をしたいかによって関わりかたが違ってくる。それを支える事務局をタウンカフェが担ってくださって、継続してきてます。幾つものそういう場を提供できるタウンカフェとの出会いに感謝してます。

森山三枝 キヤンドルナイトin港南台実行委員  
小箱ショップオーナー

## “このまちがふるさと”と感じながら

港南台タウンカフェ10周年おめでとうございます。10年前、港南台に“活気あるまちづくり”を仕掛けたのがタウンカフェだと思います。手作り感いっぱいのイベント（小箱ショップ、テント村、キャンドルナイトなど）には、地域で暮らす方々の特技や趣味を活かし、誰でも気軽に参加できることが、地域に親しまれていてと感じます。「まちサロンinCafe」では、ゲストスピーカーとして、ベシストとして、お声かけいただきありがとうございました。「まちの音人（おんじん）〜このまちで育ち、暮らし、働く〜」のタイトルどおり、福祉の仕事をしてながら音楽を続けていくことの意義を感じることができました。たくさんの方に“このまちがふるさと”と感じながら暮らしていけるよう、地域元気フォーラムなどを通じて、まちづくりに微力ながら参画させていただきます。これからも“遊びどころ”満載のイベントを楽しみにしております。

港南台地域ケアプラザ  
コーディネーター  
後藤雅彦



## おめでとう、 ありがとう。



10年ですか。そりゃあ短いスカートをはいて、髪を真っ赤に染めてカフェに通っていた高校生の私も、もう27歳にもなるわけです。学校帰りにカフェに寄り、テント村の企画やかわらばんについて、ああでもない、こうでもないと若者同士で豪語しあっていた日々。若い時から素晴らしいスタッフ、商店会、まちの皆さまとお仕事をさせてもらえたこと。そのすべてがあり私は今海外で、コミュニティを重視した観光開発に携わることができています。感慨深いですね。私にとって、タウンカフェはこれからもなくてはならない場所です。改めてここに10周年を迎えられたこと、心よりお祝い申し上げます。ありがとう、タウンカフェ。

山本 瑞穂 元ボランティアスタッフ  
インドネシアNTB州  
政府文化観光局 マーケティング部

10周年おめでとうございます  
あつという間の10年でした。  
とともに私もいつの間にか喜寿になりました。  
タウンカフェがあったおかげで  
元気でいられるのだと思います。  
多くの人に逢い、  
作品も皆さんに喜んでもらい、  
本当に楽しい10年でした。  
15年、20年と続けて下さい。  
私もそれまで頑張ります。

石川三代子  
小箱ショップオーナー



## タウンカフェが目指すもの

2005年(平成17年)5月26日AM10:26

空き店舗の隅にメジャーを当てがっている自分がいた。  
間口6M×奥行12.5M×天井高2.8M,75㎡(22坪)の  
最大の魅力は12Mの長い壁に棚の機能を組み込むこと。  
あれから10年経つことになったこの場所は、街の一角になっただ  
ろうか、利用者やスタッフは機嫌よくいい顔をしてこの場所に係っ  
ているだろうか、いつも訪れたときにはさりげなくそっと観ている。  
ある街の一角に、ひとごとではない気になる場所が、あり続けて  
くれること。そんな設計です。

石井 啓介

1級建築士事務所  
もくもく STUDIO 代表



## 奇妙で微妙、そして絶妙

タウンカフェは  
商店会、地域ボランティア、  
そして運営会社の3者が運営主体という奇妙な存在です。  
その3者が微妙なバランス感覚を持ちながらカフェを育て、  
そしてカフェから発信される絶妙なコンビネーションが、  
テント村やスタンプラリー、ふ〜のんの発行といった港南台  
の特徴あるイベントを産んでいます。  
港南台に住む人、仕事をする人、生活する人。  
みんな港南台を愛する人にするために。  
これからも奇妙で微妙、  
そして絶妙なタウンカフェでありますように。

恩田学 横浜港南台商店会 副会長  
株式会社一幸堂代表取締役



## ちょっと寄り道したくなる空間

いつでも寄りたいたい気持ちが強く、手に取りたく、  
ほしいものがいっぱいあるので、困っていますね。  
イベントなども行きたいものばかり！孫と  
のおやつ、お弁当も楽しみの一つです。  
今は亡き先代の稲村会長が「ブックスキタミの  
上に、何か面白いものができるよ」と、当時言っ  
ていらしたことが、実現されているように思ひ  
ます。若い方達もたくさんかかわっておられて  
楽しみです。  
商店会の後押しもありテント村で、大桶の海産  
物を販売させてもらっています。震災のことを  
忘れない。現地の人とつながる。大桶のことを  
知る。考える。人とのつながりなどを大切にやっ  
ています。いろんな方との出会いで宝ものをい  
ただいています。そんな寄り場としてのタウン  
カフェ。スタッフの皆様よろしくお願ひします。  
ひとつずつ、ゆっくりと、大事に。優しい木の  
椅子に座りに行きたいと思ひを強くしていま  
す。これからの歩みを楽しみにしています。

藤井照子

## タウンカフェ10年を祝し

港南台タウンカフェ開設10年誠にありがとうございます。

初めてタウンカフェを訪れたのは、ソーシャルビジネス  
ノウハウ移転事業のcafeマイスター養成講座に参加した時でした。  
小箱ショップの運営や、貸しスペース、貸しギャラリーなど多角的なカフェ  
サロンの活用、情報発信の役割も担う「カフェからのまちづくり」のビジョ  
ンと、市民セクターの連携による実践の広がり、被災してまちづくりをど  
う進めるか、NPO活動に携わり復興に関わる一町民として大いに刺激を受  
けたことを思い出します。その後も、当法人で工芸品「ぐるっとおおつち  
ショップ」を開設する際には、店舗の設計から運営に亘りご支援をいただき  
ましたが、被災地のコミュニティ再生はこれからです。どうか今後ともご交  
流のほどお願い申し上げますとともに、港南台タウンカフェの一層のご活躍  
をご祈念申し上げます。

NPO法人まちづくり・ぐるっとおおつち代表理事 (岩手県大槌町)  
小向幹雄





例えば、コーヒー飲んでまちづくり？  
港南台タウンカフェは、  
人が集い、情報が交わり、つながりづくりからうまれる  
まちづくりプロジェクトの発信基地として  
2005年に誕生して以来10年間にわたり、多くの市民ボランティア  
や地域団体のみなさまの想いが育まれてきました。  
小箱ショップやカフェサロンだけでなく、  
港南台テント村やまちあるスタンプラリーなど  
地域交流イベントの企画運営、  
地域情報誌ふ～のんや、港南台地域情報サイト e-town の  
企画・取材・編集など、  
さまざまな市民参画まちづくりプロジェクトを  
地域の団体などと連携して  
これからも、まちづくりの事務局機能を担っていきます。  
あなたも、いろんな出会いや交流を、  
1杯のコーヒーをのみながらさがしてみませんか？

## 港南台タウンカフェ



|      |                                                                                                |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 所在地  | 横浜市港南区港南台 4-17-22 キタミビル 2F<br>JR 港南台駅徒歩約2分                                                     |
| 運営   | 株式会社イータウン<br>横浜港南台商店会<br>まちづくりフォーラム港南                                                          |
| 面積   | 72.73㎡（約22坪）                                                                                   |
| 開設   | 2005年10月15日                                                                                    |
| 事業内容 | 小箱ショップ / カフェサロン<br>貸しスペース / 貸しギャラリー<br>情報発信<br>地域交流コーディネート・事務局機能<br>イベント企画運営<br>タウンシェフ養成（人材育成） |

港南台タウンカフェ10年のあゆみ

発行者：株式会社イータウン

協力：横浜港南台商店会、まちづくりフォーラム港南

記事データ等作成・執筆にあたり、関係者の皆様、港南台タウンカフェのインターン・ボランティア・スタッフなど多くの方々のご協力をいただきました。

\*掲載されている情報は、2015年9月現在のデータです。

頒布価格 本体 1,200 円＋税